

令和6年度 愛知教育大学入学試験問題

標準的解答例または出題の意図及び評価の観点

【前期日程】

科目名：総合問題（生活・総合専修）

【出題の意図】

- I 資料1と資料2の調査結果を的確に読み取り、独自の観点で分析と考察を行いながら、自分自身について、および、自分と社会との関わりについて、「総合的な学習の時間」及び「総合的な探究の時間」の目標と関連付けながら、自分の意見や見解を論理的に記述する能力を評価する。

【標準解答例】

I (200点)

<解答例>

問1 (100点)

日本の若者は、調査対象となった他の5ヶ国と比較し、人に誇れる個性があり、他人から必要とされているという実感があまりない。そして、自分の言動や行動の目的と意味、将来の自分の人生に対する目標や方向性をもっている割合が少ない。さらに、自分が大人であり、責任ある社会の一員であるという自覚をもたず、慈善活動やボランティア活動に対する関心、国や社会に役立ちたいという意欲、および、国や社会を変えられるという意識が低いと言える。従って、日本の若者の自尊感情、自己肯定感、自己効力感は高くなく、現在及び未来の国と社会の形成者としての責任意識、社会を改善するために行動できる資質や能力に関する自信が低いと言える。(298字)

問2 (100点)

総合的な学習の時間と総合的な探究の時間の目標は、日常生活や社会に注目した時に生じる疑問や関心に基づいて、自ら課題を見つけ、自ら学び考え、主体的に判断し、よりよく課題を解決する資質と能力を育てること、探究活動に主体的、創造的、協働的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすることである。そして、これらの時間では、身近な社会の課題解決に向けて、多様な他者とかかわりながら、探究的で協働的な活動が展開される。このような活動をとおして、若者に自己肯定感、自己効力感だけでなく、現在及び未来の国や社会の形成者としての責任意識、社会を改善するために行動できる資質と能力を育てることができる。(300字)

【評価の観点】

I

問 1

- ・資料 1 と資料 2 を的確に読み取り、その両方を分析・考察しているか。
- ・資料 1 と資料 2 を関連付けているか。
- ・記述内容が論理的に展開され一貫性があるか。
- ・指定された文字数の適切な範囲内で、誤字脱字等なく記述内容を適切に述べているか。

問 2

- ・問 1 の分析・考察の結果と問 2 の解答の関連付けが明確であるか。
- ・記述内容が論理的に展開され一貫性があるか。
- ・「総合的な学習の時間」と「総合的な探究の時間」の趣旨と目的を理解しているか。
- ・指定された文字数の適切な範囲内で、誤字脱字等なく記述内容を適切に述べているか。

【出題の意図】

- Ⅱ 生活や出来事の伝え合いを行う一年生の「みんなの会」の活動の事例から、自然の面白さや不思議さを捉えたと分かる複数の児童の発言や行動を的確に読み取り、児童の思考力を分析すると同時に、生活科の授業を行う教師の視点で「みんなの会」がどのような教育効果があるか、多角的に考え表現することができる。

【標準解答例】

Ⅱ (200点)

<解答例>

問1 (100点)

資料3の事例では、希美「何で回るんだろう。」悠平「どうして回すとくるくる動きながら歩くみたいになるのかな。」と独楽が回る不思議さに惹かれると共に、「どうしてくるくる回るんだろう」という問いを持ち「歩くみたいに」と人に例える思考を働かせている。資料4の事例では、絵里「オナモミはどうしてくつつくか、分かりますか？」の質問に対し、皆が探究をし始めている。由美や明子は実際に服に付け、「ジャンパーはあんまりくつつかなかった。」「毛糸は穴があいてるから。ジャンパーには穴が空いてないから。運動着もちっちゃい穴がついてるし。」と服の状態と付き方を比べる思考を働かせている。晴子が「先が曲がっているからだよ。」と服に付く理由を観察して気付く、俊男「カブトムシの足と同じだよ。虫と同じように先ちょが曲がってる。」と、オナモミの棘の先が虫の足と似た形状と機能を有することを関連付けて思考している。更に種か否かを確かめる実験も試みていた。気付く・問いを持つ・比べる・例える・関連付ける・検証するなどの考える力(思考力)が育っていた。(450字)

問2 (100点)

子どもが自分の好きなものや伝えたいことを「みんなの会」に持ち込むので、子どもの興味関心やその子の関わり方、考え方、行為の仕方などを理解することができる。ある子どもの発案から、周りの子ども達も興味・関心をもちクラス全体の活動に発展させ、子ども主体の活動を実現することができる。一人の気付きをみんなに広げ、一人の発見や疑問をみんなで共有し、探究的な学び方を学習できる。出来事を進んで語り合う活動により、聞く、話すなどのコミュニケーション力が育つ。自分の発言が認められることで自信を持ち、物・こと・人への関わ

る意欲が増す。生活科の学びを教室に持ち込み、周りの子ども達の関わる姿から生活科学習の評価ができる。(300字)

【評価の観点】

II

- ・「みんなの会」の活動の事例から、自然の面白さや不思議さを捉えたと分かる複数の児童の発言や行動を的確に読み取ることができているか。
- ・児童の発言から児童の考える力を適切に見出し、説明することができているか。
- ・指定された文字数の適切な範囲内で、誤字脱字等なく記述内容を適切に述べているか。

問2

- ・生活科の授業を行う教師の視点で、「みんなの会」の活動の教育効果を多角的に考えることができているか。
- ・問いに関する自分の考えを、事例に基づきながら述べることができているか。
- ・指定された文字数の適切な範囲内で、誤字脱字等なく記述内容を適切に述べているか。